

目次

Guest editor 葛谷 貞二

特集／薬物療法がひらく新しい肝細胞癌の治療 strategy

巻頭言	小池 和彦	785
1. 肝細胞癌に対する薬物療法		
(1) 治療アルゴリズムにおける位置づけ	山下 竜也 他	787
(2) ファーストライン導入のタイミング—現状と課題	森口 理久 他	793
(3) セカンドラインへの切り替えタイミングの現状と課題	上嶋 一臣	801
(4) 腫瘍マーカーや血液バイオマーカーの現状と課題	能祖 一裕	807
(5) 画像による治療効果判定の現状と課題	小川 力 他	813
(6) 肝予備能評価の重要性—ALBI グレードを中心に	平岡 淳 他	821
2. 肝細胞癌に対する薬物療法の現状と課題		
(1) 肝細胞癌に対するソラフェニブの現状と課題	友成 哲 他	827
(2) 肝細胞癌に対するレゴラフェニブの現状と課題	興梠 慧輔, 小笠原定久 他	834
(3) 肝細胞癌に対するレンバチニブの現状と課題	土谷 薫	839
(4) 肝細胞癌に対するラムシルマブのエビデンスと初期使用経験	末廣 洋介, 相方 浩 他	847
3. 肝細胞癌に対する新規薬物療法の最新情報		
(1) カボザンチニブの最新情報	小林 智	853
(2) アテゾリズマブとベバシズマブ併用の最新情報	岩本 英希	859
(3) その他の新規薬物療法の最新情報	池田 公史	864
4. 肝細胞癌に対する個別化医療の現況と展望	恵荘 裕嗣	869

〔連載〕検査値の読み方

腹部膨満と倦怠感を主訴とした高齢男性の1例	中牟田 誠	875
内視鏡の読み方		
黄色調の早期胃癌	福田 弘武 他	881
英語で論文を書くことの効能……学会発表だけじゃダメなんですか？		
その6. まとめ—レトロの論文も悪くない	加藤 順	874, 880